

# 2017年度入試結果速報

2017年度の志願状況は、国公立大で前年並み、私立大で増加と対照的な結果となった。系統別の人気では、ここ2年ほど続いた鮮明な文高理低に変化の兆しが見られ、今春は社会科学系や工学系に人気が集まった。2008年のリーマンショック前の状況とよく似ている。また、国公立大と私立大で若干傾向が異なることもトピックである。

今年も国立大で学部再編の動きが活発だった。それに伴い、入学定員が文系から理系へシフトする動きが各地で見られた。私立大ではネット出願、受験料割引制度の拡大が志願者増の要因となった。また、厳格化される定員超過抑制に対し、一部大学では入学定員を増員した。なお、定員増を実施しなかった大学では合格者数を抑制する動きも見られた。

以下、今春のセンター試験の概況と3月10日時点で判明している大学の志願状況をレポートする。

## 2017年度入試の概観

- ▶ 大学志願者数は微増
- ▶ 志願者数
  - 国公立大は前年並み、私立大は増加
- ▶ 系統人気は国・私で異なる
  - 国公立大…社会科学系、工学系（情報、建築）が人気
  - 私立大…経済・経営・商、国際系の人気上昇
- ▶ 大学の動き
  - 国立大の学部再編（ゼロ免課程の廃止、学部新設、入学定員は文縮理拡）
  - 私立大のネット出願・受験料割引拡大、定員超過抑制と一部大学での入学定員増
  - グローバル化への対応（英語外部試験活用、国際系学部新設）

## Part 1 大学入試センター試験概況

### 志願者数・受験者数は増加

2017年度センター試験は1月14・15日の2日間にわたり、全国691の試験会場で実施された。今年の実施日はこれまでで最も早く、年明け後すぐに試験をむかえた感覚である。先生方も、試験までにセンター対策が終えられるよう、例年以上に苦心されたことであろう。また、当日は寒波が押し寄せ、広い範囲で大雪に見舞われた。この点に関しても、例年以上に気を遣われた年であったと思われる。

今年度の志願者数は575,967人（前年比102.2%）、受験者数は547,892人（前年比102.1%）といずれも前年から増加した<図表1>。受験率は95.1%と、雪の影響を感じさせない高い数字となった。

### 受験科目数別受験者の割合

<図表2>は受験科目数別の受験者数である。前年差をみると、前年から大きく増加したのは3科目の受験者であり、約9千人増となった（前年比107.9%）。私立

<図表1> センター試験 志願者・受験者数推移

年度	志願者数（前年比）	受験者数（前年比）	受験率
2006	551,382（96.7%）	506,459（96.5%）	91.9%
2007	553,352（100.4%）	511,272（101.0%）	92.4%
2008	543,385（98.2%）	504,387（98.7%）	92.8%
2009	543,981（100.1%）	507,621（100.6%）	93.3%
2010	553,368（101.7%）	520,600（102.6%）	94.1%
2011	558,984（101.0%）	527,793（101.4%）	94.4%
2012	555,537（99.4%）	526,311（99.7%）	94.7%
2013	573,344（103.2%）	543,271（103.2%）	94.8%
2014	560,672（97.8%）	532,350（98.0%）	94.9%
2015	559,132（99.7%）	530,537（99.7%）	94.9%
2016	563,768（100.8%）	536,828（101.2%）	95.2%
2017	575,967（102.2%）	547,892（102.1%）	95.1%

※大学入試センター資料より  
 ※受験率は受験者数／志願者数

大でセンター試験利用が拡大していることにより、私立大志望者の受験が増加しているためと考えられる。

また、8科目で受験者が減少、7科目で増加した。国

<図表2>センター試験 受験科目数別の受験者数

受験科目数	受験者数			前年差 (17-16)
	15年度	16年度	17年度	
8科目	14,385	12,393	10,174	-2,219
7科目	291,447	293,513	297,009	+3,496
4-6科目	98,280	99,262	99,892	+630
3科目	107,546	112,462	121,383	+8,921
1-2科目	18,879	19,198	19,434	+236
合計	530,537	536,828	547,892	+11,064

※大学入試センター資料より

<図表3>センター試験 主要科目平均点・受験者数(本試験)

教科・科目名		平均点			受験者数		
		16年度	17年度	前年差 (17-16)	16年度	17年度	前年差 (17-16)
外国語	英語	112.43	123.73	+11.3	529,688	540,029	+10,341
	リスニングテスト	30.81	28.11	-2.7	522,950	532,627	+9,677
数学①	数学I	36.48	34.02	-2.5	5,981	6,156	+175
	数学I・数学A	55.27	61.12	+5.8	392,479	394,557	+2,078
数学②	数学II	27.76	25.11	-2.7	5,782	5,971	+189
	数学II・数学B	47.92	52.07	+4.2	353,423	353,836	+413
国語		129.39	106.96	-22.4	507,791	519,129	+11,338
理科①	物理基礎	34.37	29.69	-4.7	18,304	19,406	+1,102
	化学基礎	26.77	28.59	+1.8	105,937	109,795	+3,858
	生物基礎	27.58	39.47	+11.9	133,653	136,170	+2,517
	地学基礎	33.90	32.50	-1.4	47,092	47,506	+414
理科②	物理	61.70	62.88	+1.2	155,739	156,719	+980
	化学	54.48	51.94	-2.5	211,676	209,400	-2,276
	生物	63.62	68.97	+5.4	77,389	74,676	-2,713
	地学	38.64	53.77	+15.1	2,126	1,660	-466
地理歴史	世界史A	42.07	42.83	+0.8	1,449	1,329	-120
	世界史B	67.25	65.44	-1.8	84,131	87,564	+3,433
	日本史A	40.81	37.47	-3.3	2,472	2,559	+87
	日本史B	65.55	59.29	-6.3	160,830	167,514	+6,684
	地理A	52.14	57.08	+4.9	1,805	1,901	+96
	地理B	60.10	62.34	+2.2	147,929	150,723	+2,794
公民	現代社会	54.53	57.41	+2.9	80,240	76,490	-3,750
	倫理	51.84	54.66	+2.8	26,039	22,022	-4,017
	政治・経済	59.97	63.01	+3.0	49,184	54,243	+5,059
	倫理, 政治・経済	60.50	66.63	+6.1	48,709	50,486	+1,777

※大学入試センター資料より

公立大では多くの大学で理科、地歴公民は第1解答科目指定をしている。最大科目数である8科目を受験しても、第2解答科目で受験した科目は判定に使用されないため、受験時点から8科目を選択する受験生が減少していると考えられる。

### 科目別の実施状況

<図表3>は大学入試センターが公表した主な科目の平均点と受験者数の一覧である。

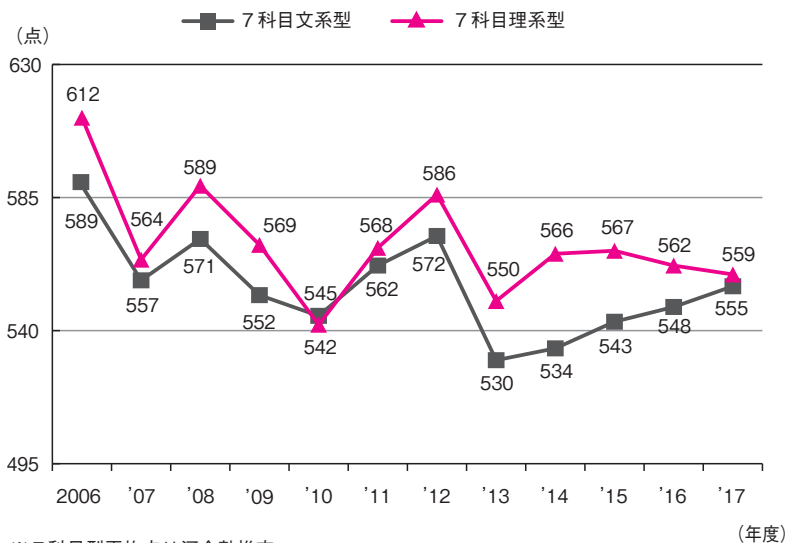
「英語」は筆記で11点アップ、リスニングを含めても約9点アップした。筆記では長文読解(物語)が理解の難しいものであったが、全体としての難易度はやや易化し、平均点アップにつながった。「数学I・数学A」「数学II・数学B」も易化し、平均点はそれぞれアップした。

一方、「国語」は22点の大幅ダウンとなった。現代文の難化と、現代文に時間を取られて古文、漢文に十分な時間を取れなかった受験生が多かったことが要因であろう。

また、主に文系生が受験する理科①では、「生物基礎」で平均点が約12点アップの39点となった。理科①受験者の多くは「化学基礎」と「生物基礎」の組み合わせで受験するが、その合計平均点は7割近くになる。文系では理科で得点できたと感じた受験生が多かったのではないか。

一方、理系生が受験する理科②では、「物理」「生物」では平均点がアップしたものの、受験者が多い「化学」の平均点が前年に続きダウンした。

<図表4>センター試験 7科目型平均点推移



※7科目型平均点は河合塾推定  
 7科目文系型：英・数(2)・国・理(1)・地公(2) (900点満点)  
 7科目理系型：英・数(2)・国・理(2)・地公(1) (900点満点)  
 \*英語は筆記+リスニングの250点を200点に換算して集計  
 \*理科①は2科目で1科目とする

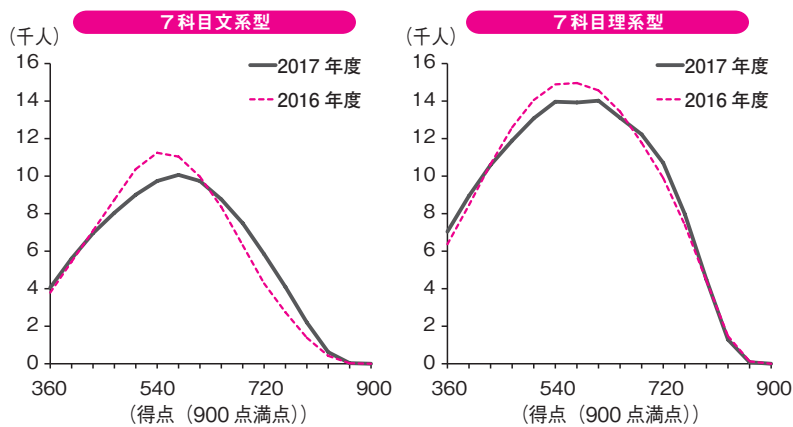
地歴・公民では、「倫理,政治・経済」で6点アップし、4単位科目では「日本史B」が59点と6割を切っているものの、他は6割台にまとまり、科目間の差は比較的小さかった。

**7科目型平均点  
文系でアップ、理系はダウン**

<図表4>は河合塾が推定するセンター試験の7科目型の平均点推移である。今年度の平均点は7科目文系型(900点満点)で555点(前年差+7点)、7科目理系型(900点満点)で559点(前年差-3点)となった。

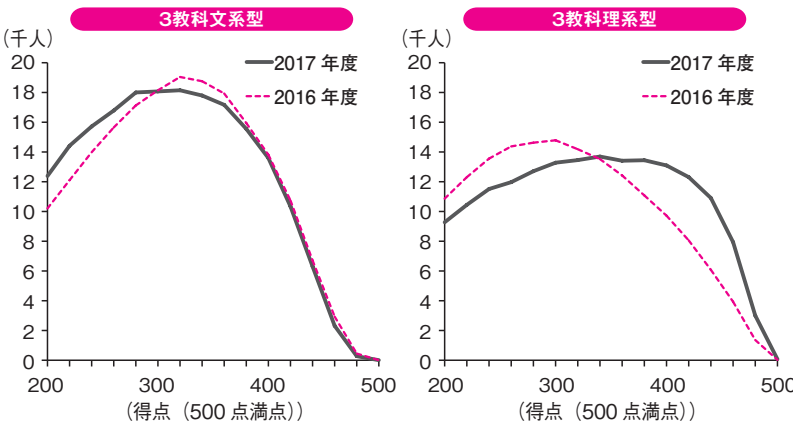
文系、理系で異なる動きとなった原因は理科である。前述の通り、文系生が多く受験する理科①で「化学基礎」「生物基礎」の平均点がアップした一方、理系生が多く受験する理科②では「化学」で平均点がダウンした。このため、7科目型の平均点は文系でアップ、理系でダウンとなった。

<図表5>「センター・リサーチ」 7科目型、3教科型受験者の成績分布



<図表5>は河合塾が実施した自己採点集計「センター・リサーチ」参加者の成績分布である。

7科目型では、文系は平均点の上昇もあり、今年の分布は右へシフトしている。650点付近(得点率7割強)から増加がみられ、とくに旧帝大を中心とした国公立難関大合格の目安となる8割以上の成績層は前年から4割ほど増加した。



理系では、成績分布の山頂付近が減少し、左右で増加する形となった。こちらも、得点率8割以上ではわずかながら増加している。

3教科型については、今年度の平均点推移は7科目型と逆であった。文系は平均点ダウン、理系はアップしている。成績分布グラフをみても<図表5>、7科目型と比べて国語の平均点ダウンの影響が大きかった文系は、左に大きくシフトしている。一方、理系は英語、数学の平均点アップにより、グラフは右にシフトしている。

※河合塾集計  
 ※3教科文系型：英・国・数(1)または地公(1)  
 3教科理系型：英・数(2)・理(1)

## Part 2 国公立大学の志願状況

### 国公立大志願者数は前年並み

国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は258,922人(前年比100.3%)と前年並みとなった<図表6>。センター試験の受験者数が前年比102.1%とやや増加したのと比較すると、低めの数値となった。なお、募集人員に対する志願倍率は3.24倍と前年から大きな変化はなかった。

後期日程の志願者数は184,227人(前年比99.0%)で前年から約2千人減となった。近年、難関大を中心に後期日程廃止・縮小の動きが続いている。今春は、大阪大が世界適塾入試の導入に伴い後期日程を廃止しており、さらなる志願者の減少につながった。

公立15大学で実施される中期日程の志願者数は304人増の前年比101.1%となった。今春より公立大として入試を行う山陽小野田市立山口東京理科大が加わったことから、志願者数はやや増加となった。この大学を除くと志願者数は前年比97.5%となる。昨春志願者が大きく増加した釧路公立大、高崎経済大などで、今春は大幅な志願者減となったことなどが要因である。

<図表7>は国公立大の志願者数と志願倍率の推移を示している。リーマンショック後の不況の影響で、2010・11年度と志願者数が増加した。その後現行の学習指導要領での入試となった2015年度を契機に志願者は減少、そのまま推移しており、近年国公立大の人気は落ち着きをみせている。

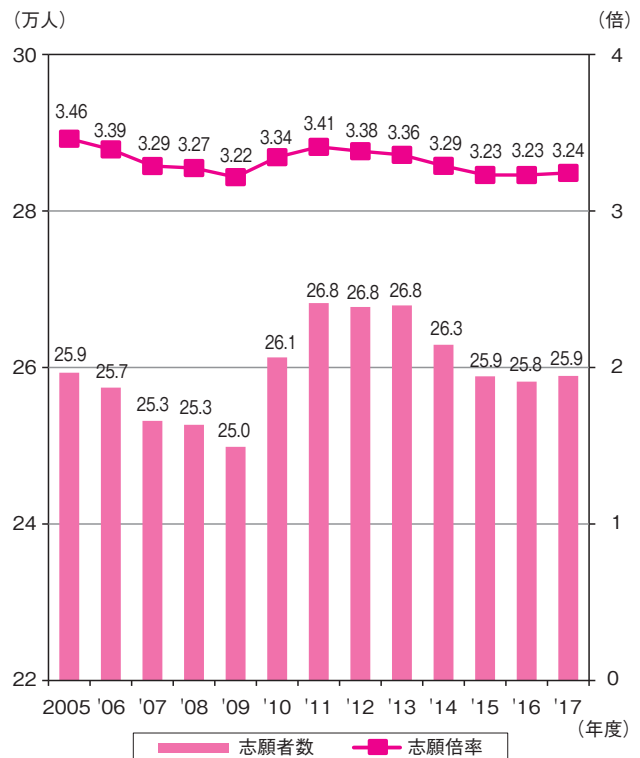
<図表8>は、地区別の志願状況をまとめたものである。北海道地区、東北地区、九州地区などでは志願者が減少した一方、都市部では志願者の増加がみられた。南関東地区では、東京大、東京工業大といった難関大のほか、東京学芸大、横浜市立大など志願者が増加した大学が目立った。近畿地区でも志願者数は昨春より千人以上増加した。京都工芸繊維大、大阪市立大などで志願者が増加したほか、今春より公立大として入試を実施する福知山公立大が加わった影響もある。四国地方では前年比

<図表6>国公立大志願状況

区分	日程	募集人員		志願者数				志願倍率	
		16年度	17年度	16年度	17年度	前年差	前年比	16年度	17年度
国立	前期	64,889	64,542	198,011	197,112	-899	99.5%	3.05	3.05
	後期	15,556	14,902	141,267	139,006	-2,261	98.4%	9.08	9.33
公立	前期	15,057	15,291	60,181	61,810	+1,629	102.7%	4.00	4.04
	後期	3,697	3,659	44,852	45,221	+369	100.8%	12.13	12.36
	中期	1,958	1,978	27,333	27,637	+304	101.1%	13.96	13.97
国公立計	前期	79,946	79,833	258,192	258,922	+730	100.3%	3.23	3.24
	後期	19,253	18,561	186,119	184,227	-1,892	99.0%	9.67	9.93
	中期	1,958	1,978	27,333	27,637	+304	101.1%	13.96	13.97

※文部科学省資料より ※志願倍率は志願者数/募集人員  
※分離・分割方式ではなく独自日程で実施する大学は上表には含まれていない

<図表7>国公立大(前期日程)志願者数の推移



※文部科学省資料より ※志願倍率は志願者数/募集人員

107.0%と増加率が高くなったが、徳島大(理工)や理学部を改組した高知大(理工)で志願者が大幅に増加した影響が大きい。

＜図表8＞国公立大（前期日程）地区別志願状況

地区	16年度	17年度	前年差	前年比
北海道	13,090	12,587	-503	96.2%
東北	21,227	19,882	-1,345	93.7%
北関東	14,819	14,398	-421	97.2%
南関東	51,415	52,890	+1,475	102.9%
甲信越	11,543	11,455	-88	99.2%
北陸	10,725	10,920	+195	101.8%
東海	22,914	23,430	+516	102.3%
近畿	42,755	44,010	+1,255	102.9%
中国	23,502	23,576	+74	100.3%
四国	11,709	12,528	+819	107.0%
九州	34,493	33,246	-1,247	96.4%

※文部科学省資料より

※北関東：茨城・栃木・群馬 南関東：埼玉・千葉・東京・神奈川

### 学部系統別の志願状況

#### 「法・政治」「経済・経営・商」「工」で志願者増

＜図表9＞は国公立大の前期日程の志願状況を、学部系統別に集計したものである。

学部系統の人気は、過去2年文系への回帰が続いていた。今春は、「文・人文」「社会・国際」の志願者数は前年並みにとどまる一方、「法・政治」「経済・経営・商」ではさらなる人気の高まりが感じられるなど、系統による差がみられた。理系についても、「理」「農」で志願者が減少したものの、「工」では増加しており、理系全体で同じ動きとはなっていない。

また、今春は昨春に引き続き学部再編の動きが活発で、志願状況にも影響がみられた。教育学部では6大学で総合科学課程（ゼロ免課程）が廃止された。「教育－総合科学課程」の志願者数が約3割減となったのはこのためである。また、新設の学部・学科は新潟大（創生）、神戸大（国際人間科学）など学際系が目立つ。このため、「総合・環境・情報・人間」の志願者数は前年比105.1%と増加した。とくに、情報分野では名古屋大（情報）（情報文化を改組し、新学部を設置）や滋賀大（データサイエンス）などが含まれており、志願者は2割近く増加した。ただし、系統全体で募集人員も増加していることから、志願倍率は3.66倍から3.63倍とむしろダウンした。

以下、主な系統について学部再編大の状況を踏まえつつ確認してみよう。なお、文中の志願者数・前年比はとくに記載がない場合、前期日程を表している。

### 文・人文学系

系統全体の志願者は前年比99.5%と前年並みである。「法・政治」「経済・経営・商」とは対照的に、「文・人文」の人気は落ち着いている。ただし、難関10大学の文学部は東京大（文科三類）を除き志願者が増加した。なかでも北海道大、名古屋大、九州大では2割近くも増加した。

一方、その他の大学では、2年連続で志願者が増加していた北九州市立大（文－比較文化）は前年比54.6%、3年連続で志願者が増加していた信州大（人文）は同81.9%と、志願者が大きく減少した大学もみられた。

### 社会科学系（社会・国際、法・政治、経済・経営・商）

志願者前年比は「社会・国際」で前年比99.4%と前年並みとなった一方、「法・政治」「経済・経営・商」ではいずれも同104.4%と増加した。

「社会・国際」では志願者数が昨春を下回ったが、学部再編の影響で募集人員も減少した。このため志願倍率は前年の3.61倍から3.67倍に上昇した。奈良県立大（地域創造）、広島市立大（国際）、北九州市立大（地域創生（通常枠））など、公立大では志願者が増加した大学が目立った。

「法・政治」「経済・経営・商」は、全体的に志願者の増加がみられた。難関大では、東北大（法）、東京大（文科一類、文科二類）、一橋大（商、法）、名古屋大（法）、京都大（経済）、大阪大（法）、神戸大（経営）、九州大（経済、法）など軒並み志願者が増加した。なかでも神戸大（経営）は前年まで3年連続で志願者が減少していたこともあり、今春は前年比133.0%と大幅に増加した。一方で、昨春入試で志願者が大幅増となった埼玉大（経済（昼間））、公立鳥取環境大（経営）、尾道市立大（経済情報）、下関市立大（経済）などでは、反動により大幅な志願者減となった。

### 自然科学系（理、工、農）

志願者数は、「理」が前年比94.9%、「工」が同103.1%、「農」が同97.7%となった。

「理」「農」では、昨春入試で第1段階選抜が実施されなかった東京大（理科二類）、学科を改組する三重大（生

<図表9> 国公立大（前期日程）学部系統別志願状況

系統	募集人員		志願者数				志願倍率	
	16年度	17年度	16年度	17年度	前年差	前年比	16年度	17年度
文・人文	7,091	7,155	22,904	22,782	-122	99.5%	3.23	3.18
社会・国際	3,538	3,457	12,757	12,680	-77	99.4%	3.61	3.67
法・政治	4,289	4,221	13,123	13,700	+577	104.4%	3.06	3.25
経済・経営・商	8,082	8,327	26,243	27,385	+1,142	104.4%	3.25	3.29
教育－教員養成課程	7,275	7,356	20,188	19,764	-424	97.9%	2.77	2.69
教育－総合科学課程	1,424	915	3,992	2,835	-1,157	71.0%	2.80	3.10
理	5,225	5,157	15,400	14,613	-787	94.9%	2.95	2.83
工	22,429	22,546	67,728	69,806	+2,078	103.1%	3.02	3.10
農	5,436	5,491	17,184	16,784	-400	97.7%	3.16	3.06
医・歯・薬・保健	10,521	10,562	40,012	39,858	-154	99.6%	3.80	3.77
医	3,661	3,691	18,342	18,094	-248	98.6%	5.01	4.90
歯	453	455	1,793	1,842	+49	102.7%	3.96	4.05
薬	750	750	2,836	3,076	+240	108.5%	3.78	4.10
看護	3,869	3,844	11,593	11,274	-319	97.2%	3.00	2.93
医療技術・他	1,788	1,822	5,448	5,572	+124	102.3%	3.05	3.06
生活科学	771	741	2,681	2,426	-255	90.5%	3.48	3.27
芸術・スポーツ科学	1,656	1,577	7,941	7,835	-106	98.7%	4.80	4.97
総合・環境・情報・人間	2,197	2,328	8,040	8,453	+413	105.1%	3.66	3.63
国公立 計	79,934	79,833	258,193	258,921	+728	100.3%	3.23	3.24

※河合塾調べ（一部大学発表の数値と文部科学省資料の数値と異なるところは大学発表値を優先）  
 ※系統の分類は河合塾による

物資資源) など一部では志願者の増加がみられたものの、全国的には志願者の減少が目立った。とくに、山形大(農) 61.8%、茨城大(理) 76.0%、山梨大(生命環境) 69.1%、香川大(農) 60.9%などは(いずれも前年比)、昨春入試で志願者が大幅増となったことも要因となっている。

「工」は自然科学系のなかで唯一前年の志願者数を上回った。富山大(工)では前年比213.0%と志願者が倍増した。とくに環境応用化学科を除く全学科で新規実施されるb方式(2次重視枠)に集中しており、センター試験の国語や理科で思うように得点できなかった受験生が多く出願したのではないだろうか。また、徳島大(理工(昼間))でも前年比184.1%と志願者が大きく増加した。昨春入試において実質倍率が1.4倍と低倍率であったことから志願者が集まったとみられる。このほか、新設の横浜国立大(都市科学)、今春より公立大として入試を実施する山陽小野田市立山口東京理科大(工)、

高知大の理学部改組で誕生する理工学部の化学生命理工学科が加わっていることも、系統全体の志願者増につながった。

**医療系**

医療系全体の志願者は前年比99.6%となった。

医学科は前年比98.6%と志願者はやや減少した。3年連続での志願者減となっており、数年前までの医学科人気は落ち着きを取り戻している。昨春の志願者は東日本の大学で増加、西日本で減少が目立っていたが、今春はその反動から西高東低となった。昨春志願者が2割増となった金沢大では前年比74.7%、昨春3割増となった浜松医科大では同69.7%と大きく減少した。このほか弘前大では志願者数は半減して484人、志願倍率は7.8倍となった。昨春入試の実質倍率は13.5倍と高倍率であったことに加え、今春入試より2段階選抜が導入

<図表 10> 国立難関 10 大学の志願状況

大学名	前期日程				後期日程			
	16 年度	17 年度	前年差	前年比	16 年度	17 年度	前年差	前年比
北海道	5,738	5,540	-198	96.5%	4,181	4,096	-85	98.0%
東北	4,900	4,927	+27	100.6%	1,269	1,156	-113	91.1%
東京	9,278	9,534	+256	102.8%	-	-	-	-
東京工業	3,892	4,167	+275	107.1%	509	523	+14	102.8%
一橋	2,740	2,907	+167	106.1%	1,432	1,577	+145	110.1%
名古屋	4,719	4,723	+4	100.1%	78	60	-18	76.9%
京都	8,029	7,875	-154	98.1%	324	487	+163	150.3%
大阪	7,337	7,397	+60	100.8%	3,097	-	-	-
神戸	5,776	5,971	+195	103.4%	4,113	4,053	-60	98.5%
九州	5,095	5,190	+95	101.9%	2,644	2,755	+111	104.2%
難関 10 大学計	57,504	58,231	+727	101.3%	17,647	14,707	-2,940	83.3%
その他大学計	200,688	200,691	+3	100.0%	168,472	169,520	+1,048	100.6%

※文部科学省資料より ※「その他大学計」は難関 10 大学を除いた国公立大計

されたことが敬遠要因となった。

看護系は前年比 97.2%と志願者が減少した。敦賀市立看護大（看護一看護）は前年比 38.0%となった。昨春入試において志願者が前年の 6 倍以上集まり、実質倍率が 10.0 倍の高倍率となったことから、今春は敬遠された。このほか、茨城県立医療大（保健医療一看護）43.1%、長野県看護大（看護）64.5%、滋賀県立大（人間看護）64.6%など（いずれも前年比）、昨春の志願者増加が今春入試の志願者減少の要因となった大学が各地でみられた。

薬学部は前年比 108.5%となったが、人数にすると 240 人の増加にとどまる。富山大（薬）136.1%、金沢大（医薬保健一薬・創薬科学）159.8%、岡山大（薬）153.1%（いずれも前年比）と特定の大学で志願者が増加しており、分野全体の志願者増を牽引することとなった。

### 難関国立大の志願状況 文系生は強気の出願

<図表 10> は旧帝大を中心とした難関 10 大学の志願状況をまとめたものである。

難関 10 大学全体では、前期日程は 727 人増（前年比 101.3%）となった。これら難関大は堅調な人気を示している。ただし文理別でみると、文系で増加した一方、理系では減少と対照的な動向となった。センター試験で

7 科目文系型生の平均点が上昇し、これが文系生の強気の出願につながったとみられる。

前期日程で志願者の増加率が高かったのは、東京工業大、一橋大など首都圏の大学である。一方、志願者が増加した大学が目立つなか、北海道大では前年比 96.5%、京都大では同 98.1%と志願者が前年を下回った。両大学とも理系学部を中心に志願者が減少した。

後期日程の志願者数は、約 3 千人減となった。大阪大が今春より後期日程を廃止したためである。ほかにも北海道大や東北大などで志願者が減少した。一方、実施 2 年目となる京都大の特色入試（法）の志願者数は前年比 150.3%と大きく増加した。一橋大でも 1 割ほど志願者が増加した。

以下、大学別の状況を確認してみよう。

#### 北海道大学

前期日程の志願者は理系学部を中心に減少し、前年比 96.5%となった。ただし、総合入試理系数学重点選抜群の志願者数は、昨春入試で半減した反動から前年比 134.0%と大きく増加した。文系学部では志願者の増加が目立った。なかでも文、教育学部では約 2 割増となっており、増加が顕著であった。法学部では昨春入試で 3 割増となった志願者数を今春も維持した。

後期日程の志願者数は前年比 98.0%と減少した。理、獣医、水産、歯、薬学部など、前期日程同様に理系学部

での減少が目立った。ただし、工学部では応用理工系、環境社会工のように志願者が増加した学科もみられた。文系学部ではいずれの学部も志願者が増加した。

### 東北大学

前期日程の志願者数は前年比 100.6%と前年並みに落ち着いた。文系学部では、文、法学部で志願者増、教育、経済学部で志願者減となった。いずれも昨春入試の増減の反動とみられる。理系学部では理、農、薬学部など志願者が減少した学部が目立った。ただし医学部では医学科のほか看護学、検査技術科学の両専攻で 1 割ほど志願者が増加した。昨春入試で志願者が大きく減少した反動であろう。

経済学部と理学部のみで実施される後期日程では、両学部とも志願者数は前年比 91.1%と減少した。いずれも 2 年連続での志願者減となった。

### 東京大学

前期日程の志願者数は前年比 102.8%と増加した。文理別にみても、文科類では志願者数は前年比 102.3%、理科類では同 103.1%と、ともに志願者が増加しており、堅調な人気を維持している。

科類別にみると、昨春入試で第 1 段階選抜が実施されなかった文科一類では志願者数前年比 108.6%、文科二類では同 107.1%、理科二類では同 112.3%といずれも志願者が 1 割近く増加した。一方、昨春入試で志願者が大きく増加した文科三類では前年比 94.7%、理科三類では同 96.5%と志願者減となった。また、理科一類の志願者数は前年比 98.4%と 2 年連続での減少となった。

### 東京工業大学

前期日程の志願者数は前年比 107.1%と 2 年連続での増加となった。とくに第 4 類、第 5 類などで志願者が大きく増加した。このほか、2012 年度入試以来志願倍率が 2 倍台で推移してきた第 7 類（生命理工学系）は、志願者数が前年比 116.5%と増加、志願倍率は 3.2 倍となった。大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞したことも注目を集めた一因だろう。

### 一橋大学

前期日程の志願者数は前年比 106.1%と増加した。学部別にみると、法、商学部で 2 割近く志願者が増加した。

昨春入試で志願者が 1 割ほど増加した社会学部は志願者数前年比 88.4%と減少、志願倍率は 3.1 倍と 4 学部の中なかでもっとも低倍率となった。

後期日程の志願者数は前年比 110.1%と大きく増加した。東京大・京都大（特色入試を除く）ではすでに後期日程が廃止されていることに加え、今春は大阪大で廃止された影響から、難関大前期日程出願者の後期日程併願先として人気の高まりが感じられる。学部別では、法学部で志願者数前年比 164.4%、社会学部で同 124.4%と増加が顕著である。

### 名古屋大学

前期日程の志願者数は前年比 100.1%と前年並みとなった。工学部は 5 学科を 7 学科へと改組し、学部全体の募集人員は 52 名減少した影響から、志願者数は昨春から 153 名減少の 1,748 人となった。唯一募集人員が増加した環境土木・建築学科においても、志願者は昨春より 1 割減少した。また、新設のエネルギー理工学科では、募集人員 36 名に対して志願者数は 73 人、志願倍率は 2.0 倍と低倍率となった。

情報文化学部を発展改組し新設された情報学部は、募集人員が 54 名増の 113 名となることに伴い、志願者数も大きく増加した。既存の自然情報学科では募集人員は前年並みだが志願者数は約 3 割増となった。新設のコンピュータ科学科は募集人員が他の 2 学科よりも多い 53 名だが、志願者数は 119 人、志願倍率は 2.2 倍と他学科よりも低倍率に落ち着いた。

### 京都大学

前期日程の志願者数は前年比 98.1%と微減の状況である。学部別では教育学部で 3 割以上の志願者増となったほか、文、経済学部も 1 割ほど志願者が増加した。理、工、農学部では志願者が減少したが、工学部では建築学科や情報学科などで志願者が増加した。

改組に伴い募集人員が 127 名から 70 名へと大きく減少した医学部人間健康科学科では、志願者数は前年比 105.5%と増加した。志願倍率は前年の 2.3 倍から 4.4 倍に跳ね上がった。

実施 2 年目となる法学部の特色入試（後期日程）の志願者数は、前年比 150.3%の 487 人と大幅に増加した。大阪大が後期日程を廃止した影響が大きい。



## 大阪大学

後期日程の廃止に伴い前期日程の募集人員は5%ほど増加するが、志願者数は前年比100.8%と前年並みにとどまった。学部別にみると、法学部では法学科の志願者数が前年比153.8%と増加した。一方、理、工、基礎工学部では志願者が減少した。これら理工系3学部は世界適塾入試の導入に伴い募集人員が減少した。加えて、平均点が20点以上ダウンしたセンター試験の国語の配点比率が高く、出願を断念した受験生も多くいたのではないだろうか。

## 神戸大学

前期日程の志願者数は前年比103.4%と増加した。とくに経営学部の志願者数は昨春入試より3割増と人気を集めている。医学部では、募集人員が15名増となる医学科で志願者が前年比109.1%と増加した。一方、保健学科看護学専攻では募集人員が10名増加したが、志願者数は前年比76.9%と大きく減少した。昨春入試で志願者数が3割増となった反動とみられる。

新設される国際人間科学部は、改組前の国際文化、発達科学部と比較して募集人員が50名減少したため、志願者も前年の2学部計と比較して減少した。ただし、発

達コミュニティ学科では、募集人員54名に対し志願者数は268人、志願倍率は5.0倍と前期日程としては高倍率となった。

後期日程の志願者数は前年比98.5%とやや減少した。しかし大阪大後期日程廃止の影響から、文学部の志願者数は前年比143.2%、法学部では同135.3%と大きく増加した。

## 九州大学

前期日程の志願者数は前年比101.9%となった。文、教育、法、経済の文系学部に加え、理、歯学部でも志願者が増加した。とくに歯学部では、志願者数前年比121.3%と増加が顕著であった。これに対して、芸術工、医学部では志願者が減少した。芸術工学部の志願者数は、昨春入試で大きく増加した反動から2割近くの減少となった。

後期日程の志願者数は前年比104.2%と増加した。とくに文学部では、昨春入試で志願者が2割ほど減少した反動から、前年比134.8%となった。このほか理学部でも志願者数が前年比127.5%と大きく増加した。とくに生物学科では昨春の2倍以上の志願者が集まった。過去2年実質倍率が2倍を切っていたため、受験生にとって狙い目と映ったのであろう。

## Part 3 私立大学の志願状況

### 私立大志願者数は増加 都市部大規模大での増加目立ち、 6大学で10万人超え

私立大入試について、現時点で志願者数が判明している全国193大学の集計（3月10日現在）から検証する。なお、この193大学の2016年度の志願者数合計は、前年に調査した全私立大志願者総数の約8割を占めており、今春入試の概観は現段階でも十分に掴めるものと考えられる。

193大学の一般入試の志願者数は、全体で前年比108.2%と増加した<図表11>。方式別にみても一般・センター方式ともに増加しており、国公立大前期日程の志願者数が前年並みとなっているのとは対照的である。

私立大ではインターネット出願の拡大、一度の試験で複数学部・学科への出願を認める、複数方式に同時出願すると受験料を割引くといった一人あたりの出願校数が

増える仕組みが広がっており、これが私立大の延べ志願者数の増加につながっている。なお、学習指導要領が現行課程に移行後、センター試験の理科の科目負担は文系・理系ともに重くなっている。これも国公立大を敬遠して私立大を手厚く受験する動きに少なからず影響を与えていると思われる。

今春も現時点で志願者数が10万人を超えた大学が6大学ある。東洋大、日本大、法政大、明治大、早稲田大、近畿大で、いずれも昨春より志願者が増加した。法政大、明治大、早稲田大の3大学は現時点で11万人を、近畿大ではすでに14万人を超えており、都市部の大規模大で志願者増が目立つ状況である。

一方で、都市部大規模大では2016年度から定員超過抑制の厳格化が進む。これに対応する形で2017年度は入学定員を増員する大学が例年以上に多かった。また、定員増を実施しない大学では合格者数を絞り込む動きが

<図表 11> 私立大 大学グループ別志願状況

	一般方式				センター方式				合計				
	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16	
私立 193 大学計	1,735,739	1,825,062	1,985,819	108.8%	801,312	825,686	882,552	106.9%	2,537,051	2,650,748	2,868,371	108.2%	
大学グループ	早慶上理	196,819	197,733	208,974	105.7%	33,875	34,255	33,646	98.2%	230,694	231,988	242,620	104.6%
	MARCH	264,309	275,197	292,159	106.2%	130,034	129,800	136,366	105.1%	394,343	404,997	428,525	105.8%
	日東駒専	141,471	157,705	178,474	113.2%	93,720	100,458	113,650	113.1%	235,191	258,163	292,124	113.2%
	関関同立	176,068	180,498	190,354	105.5%	76,860	76,720	79,566	103.7%	252,928	257,218	269,920	104.9%
	産近甲龍	147,037	154,966	185,595	119.8%	44,546	46,386	50,743	109.4%	191,583	201,352	236,338	117.4%

※数値は 3/10 現在、河合塾集計（17 年度の志願者数が未公表・確定前の方式は集計対象外）

※大学グループ

早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科 MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政 日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修  
関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館 産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

懸念された。現時点では一部の大学、入試方式分しか判明していないが、昨春より厳しい状況が各地でみられる。合格者数についての詳細は本誌 6 月号であらためてご報告したい。

では、次に大学グループ別の志願状況を確認する。「早慶上理」は前年比 104.6%となった<図表 11>。私立大全体と比較すれば増加率はやや低い。慶應義塾大では昨春まで 2 年連続で増加していた志願者数を維持し、前年並みとなった。早稲田大では 2 年連続の志願者増となった。また、上智大、東京理科大でも志願者増となった。

「MARCH」は前年比 105.8%となった。グループ内では唯一中央大で志願者が減少した。また、法政大では前年比 116.9%、人数にして約 1 万 7 千人増となった。昨春入試では合格者数を減らす大学が多かったなか、法政大は前年より多くの合格者を出していた。受験生には好材料に映ったことが、人気高騰の理由の一つだろう。

「日東駒専」は志願者前年比 113.2%と大きく増加した。専修大（前年比 121.8%）、東洋大（同 119.4%）の志願者増が目につく。専修大ではセンター方式で今春から 2 学科併願する場合の受験料が据え置きとなり、センター方式の志願者数は前年比 149.1%となった。東洋大では国際地域学部を改組して国際、国際観光の 2 学部を設置した。志願者数は両学部合わせて 1 万人を超えた。前年の国際地域学部の志願者数より 4 割ほど多い。また、新設の情報連携学部にも 3 千人近い志願者が集まったほ

か、既存の学部も社会科学系を中心に志願者が増加した。

西に目を向けると、「関関同立」は前年比 104.9%となった。「早慶上理」同様、私立大全体よりはやや低い増加率となった。同志社大、関西学院大では前年から 1 割以上志願者が増加した。同志社大の志願者増には、大阪大後期日程廃止により私立大の出願を手厚くする動きが影響していそう。また、関西学院大では 4 年ぶりの志願者増となった。立命館大、関西大では志願者数は前年並みとなった。

なお、「産近甲龍」は前年比 117.4%と増加率が高い。京都産業大、近畿大で志願者が大きく増加した。京都産業大は現代社会学部を新設、6 千 5 百人を超える志願者が集まった。近畿大では理学部に新たな併願方式を導入したほか、全学で 9 百名以上の入学定員増となることなどが志願者増につながった。入学定員増は募集要項表紙などでもうたっており、受験生に伝わりやすかったものと思われる。

学部系統別の状況

「社会・国際」「経済・経営・商」が人気  
医療系は落ち着く

<図表 12> は学部系統別の志願動向である。私立大全体の前年比 108.2%を基準に各系統の動向を確認すると、昨春までの鮮明な文高理低とはやや状況が異なる。

<図表 12> 私立大 学部系統別志願状況

系統	一般方式				センター方式				合計			
	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16
文・人文	322,387	342,285	367,375	107.3%	154,913	160,781	159,078	98.9%	477,300	503,066	526,453	104.6%
社会・国際	182,186	187,691	224,013	119.4%	83,881	85,572	100,185	117.1%	266,067	273,263	324,198	118.6%
法・政治	142,759	159,296	169,530	106.4%	70,661	77,763	80,535	103.6%	213,420	237,059	250,065	105.5%
経済・経営・商	365,203	395,519	451,637	114.2%	153,585	161,732	183,000	113.2%	518,788	557,251	634,637	113.9%
理	74,248	72,671	77,926	107.2%	39,242	37,699	38,217	101.4%	113,490	110,370	116,143	105.2%
工	333,417	349,872	361,993	103.5%	176,584	177,843	187,275	105.3%	510,001	527,715	549,268	104.1%
農	64,880	61,294	68,266	111.4%	31,084	31,211	31,246	100.1%	95,964	92,505	99,512	107.6%
医・歯・薬・保健	115,448	118,509	120,261	101.5%	31,797	32,824	36,342	110.7%	147,245	151,333	156,603	103.5%
医	34,466	37,469	38,138	101.8%	4,284	4,541	5,733	126.2%	38,750	42,010	43,871	104.4%
歯	1,619	1,731	1,712	98.9%	732	793	752	94.8%	2,351	2,524	2,464	97.6%
薬	38,243	35,883	34,775	96.9%	13,386	12,087	12,640	104.6%	51,629	47,970	47,415	98.8%
看護	19,823	22,010	22,508	102.3%	5,813	7,271	7,828	107.7%	25,636	29,281	30,336	103.6%
医療技術・他	21,297	21,416	23,128	108.0%	7,582	8,132	9,389	115.5%	28,879	29,548	32,517	110.0%
生活科学	36,283	36,374	35,497	97.6%	14,875	14,239	14,585	102.4%	51,158	50,613	50,082	99.0%
芸術・スポーツ科学	49,104	50,744	53,736	105.9%	24,736	24,926	26,995	108.3%	73,840	75,670	80,731	106.7%
総合・環境・情報・人間	67,081	70,579	77,576	109.9%	30,201	32,677	36,703	112.3%	97,282	103,256	114,279	110.7%
私立 193 大学計	1,752,996	1,844,834	2,007,810	108.8%	811,559	837,267	894,161	106.8%	2,564,555	2,682,101	2,901,971	108.2%

※数値は 3/10 現在、河合塾集計（17年度の志願者数が未公表・確定前の方式は集計対象外）

文系では「文・人文」で前年比 104.6%と、増加率は低めとなった。また、国公立大では人気のある「法・政治」も前年比 105.5%にとどまる。慶應義塾大では志願者数は前年並み、早稲田大、中央大などでは減少しており、難関大では人気を感じる状況ではない。一方、「社会・国際」「経済・経営・商」では志願者が大きく増加した。「社会・国際」では前述の東洋大の 2 学部のほかにも昭和女子大（国際）2,696 人、南山大（国際教養）1,490 人など、新設学部も堅調に志願者を集めた。ただし、既存の大学の中には新設学部志願者を奪われ、減少したところもみられた。

理系では「理」で前年比 105.2%、「工」で同 104.1%、「農」で同 107.6%となった。「理」「工」では増加幅は小さいが、「工」の建築・土木分野は人気となっている。医療系では医学科で前年比 104.4%となった。これは国際医療福祉大に医学部が新設された影響で、これを除くと前年比は 96.4%と志願者は前年を下回る。国公立大でも医学科の志願者はやや減少しており、数年前までの医学科人気は沈静化したといっただろう。薬学系は国公立大では志願者が増加したが、私立大では前年並みとなった。

&lt;図表 13&gt; 主要私立大 志願状況

大学名	一般方式				センター方式				合計			
	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16	15年度	16年度	17年度	17/16
北星学園	1,978	1,903	1,918	100.8%	1,022	855	834	97.5%	3,000	2,758	2,752	99.8%
北海学園	3,955	3,988	4,109	103.0%	2,094	1,995	1,817	91.1%	6,049	5,983	5,926	99.0%
東北学院	5,536	5,580	6,707	120.2%	3,283	3,756	3,834	102.1%	8,819	9,336	10,541	112.9%
獨協	9,246	9,893	10,719	108.3%	4,507	7,928	7,927	100.0%	13,753	17,821	18,646	104.6%
千葉工業	29,440	47,433	47,865	100.9%	21,448	29,062	26,601	91.5%	50,888	76,495	74,466	97.3%
青山学院	45,544	46,537	47,751	102.6%	14,194	13,313	13,215	99.3%	59,738	59,850	60,966	101.9%
学習院	11,798	17,930	18,828	105.0%	—	—	—	—	11,798	17,930	18,828	105.0%
北里	13,256	13,529	12,854	95.0%	4,665	5,341	4,353	81.5%	17,921	18,870	17,207	91.2%
慶應義塾	43,352	44,797	44,845	100.1%	—	—	—	—	43,352	44,797	44,845	100.1%
工学院	12,595	13,096	13,897	106.1%	4,752	5,103	6,530	128.0%	17,347	18,199	20,427	112.2%
國學院	14,484	14,758	16,854	114.2%	5,991	7,268	8,164	112.3%	20,475	22,026	25,018	113.6%
国際基督教	1,870	1,581	1,570	99.3%	—	—	—	—	1,870	1,581	1,570	99.3%
国土館	10,041	11,858	13,795	116.3%	7,171	8,513	8,049	94.5%	17,212	20,371	21,844	107.2%
駒澤	20,700	21,844	24,502	112.2%	10,875	16,904	17,164	101.5%	31,575	38,748	41,666	107.5%
芝浦工業	23,448	21,384	24,131	112.8%	15,524	12,213	14,467	118.5%	38,972	33,597	38,598	114.9%
上智	31,740	27,748	29,277	105.5%	—	—	—	—	31,740	27,748	29,277	105.5%
成蹊	12,867	12,643	14,081	111.4%	8,111	7,977	9,400	117.8%	20,978	20,620	23,481	113.9%
成城	10,976	11,450	9,776	85.4%	6,940	7,699	6,923	89.9%	17,916	19,149	16,699	87.2%
専修	20,382	24,589	26,781	108.9%	10,673	11,585	17,271	149.1%	31,055	36,174	44,052	121.8%
大東文化	8,574	8,663	11,363	131.2%	6,313	7,102	9,956	140.2%	14,887	15,765	21,319	135.2%
中央	38,072	40,155	41,414	103.1%	30,975	34,268	31,377	91.6%	69,047	74,423	72,791	97.8%
津田塾	1,539	1,575	2,230	141.6%	2,726	2,753	3,486	126.6%	4,265	4,328	5,716	132.1%
東海	27,280	28,102	30,268	107.7%	14,915	15,253	16,403	107.5%	42,195	43,355	46,671	107.6%
東京女子	4,405	4,141	4,313	104.2%	4,542	4,554	4,881	107.2%	8,947	8,695	9,194	105.7%
東京電機	13,931	12,900	15,333	118.9%	8,348	6,709	7,921	118.1%	22,279	19,609	23,254	118.6%
東京都市	10,041	9,166	8,913	97.2%	6,539	8,052	8,007	99.4%	16,580	17,218	16,920	98.3%
東京農業	20,435	19,472	24,724	127.0%	9,032	8,603	9,367	108.9%	29,467	28,075	34,091	121.4%
東京理科	32,847	33,104	36,687	110.8%	19,261	18,300	16,828	92.0%	52,108	51,404	53,515	104.1%
東洋	42,022	45,745	54,204	118.5%	41,227	38,748	46,714	120.6%	83,249	84,493	100,918	119.4%
日本	58,367	65,527	72,987	111.4%	30,945	33,221	32,501	97.8%	89,312	98,748	105,488	106.8%
日本女子	5,982	6,778	6,519	96.2%	4,631	5,548	5,194	93.6%	10,613	12,326	11,713	95.0%
法政	65,007	70,450	80,701	114.6%	28,979	31,526	38,505	122.1%	93,986	101,976	119,206	116.9%
武蔵	10,453	9,700	10,665	109.9%	4,595	4,659	6,559	140.8%	15,048	14,359	17,224	120.0%
明治	73,688	78,330	80,441	102.7%	32,014	30,170	33,066	109.6%	105,702	108,500	113,507	104.6%
明治学院	14,198	14,190	15,554	109.6%	11,772	9,762	9,765	100.0%	25,970	23,952	25,319	105.7%
立教	41,998	39,725	41,852	105.4%	24,353	20,968	20,803	99.2%	66,351	60,693	62,655	103.2%
早稲田	88,880	92,084	98,165	106.6%	14,614	15,955	16,818	105.4%	103,494	108,039	114,983	106.4%
愛知	12,979	13,429	14,453	107.6%	6,421	6,986	6,494	93.0%	19,400	20,415	20,947	102.6%
中京	17,246	16,403	20,594	125.6%	11,687	10,209	13,565	132.9%	28,933	26,612	34,159	128.4%
南山	13,085	15,465	16,432	106.3%	11,156	10,044	9,658	96.2%	24,241	25,509	26,090	102.3%
名城	20,115	20,818	21,971	105.5%	12,593	14,871	16,897	113.6%	32,708	35,689	38,868	108.9%
京都産業	21,675	24,779	30,156	121.7%	9,620	10,661	12,999	121.9%	31,295	35,440	43,155	121.8%
同志社	40,185	40,962	45,395	110.8%	9,184	9,185	10,757	117.1%	49,369	50,147	56,152	112.0%
立命館	43,923	50,002	50,844	101.7%	36,328	37,845	37,131	98.1%	80,251	87,847	87,975	100.1%
龍谷	37,322	38,793	40,664	104.8%	7,595	8,435	7,820	92.7%	44,917	47,228	48,484	102.7%
関西	64,578	64,420	65,790	102.1%	18,363	18,172	18,796	103.4%	82,941	82,592	84,586	102.4%
近畿	89,041	95,172	118,874	124.9%	24,663	24,743	28,022	113.3%	113,704	119,915	146,896	122.5%
関西学院	27,382	25,114	28,325	112.8%	12,985	11,518	12,882	111.8%	40,367	36,632	41,207	112.5%
甲南	11,757	11,122	12,599	113.3%	6,858	6,613	6,051	91.5%	18,615	17,735	18,650	105.2%
広島修道	4,728	6,414	6,580	102.6%	2,523	3,623	3,965	109.4%	7,251	10,037	10,545	105.1%
松山	5,629	5,554	5,422	97.6%	1,933	2,201	2,140	97.2%	7,562	7,755	7,562	97.5%
西南学院	11,857	13,714	13,651	99.5%	7,145	8,233	7,920	96.2%	19,002	21,947	21,571	98.3%
福岡	31,646	33,779	34,535	102.2%	12,669	13,737	14,520	105.7%	44,315	47,516	49,055	103.2%

※数値は3/10 現在、河合塾集計（17年度の志願者数が未公表・確定前の方式は集計対象外）

## 主要大学の志願状況

<図表 13>は各地区主要大の志願状況である。いずれも3月10日までに判明した入試の集計である。以下、主な大学について状況を確認する。

### 青山学院大学

大学全体の志願者数は前年比101.9%、過去10年で最多となった。方式別にみると、一般方式で前年比102.6%、センター方式で同99.3%となった。センター方式では昨春も志願者が減少したが、増加に転ずることはなかった。

学部別にみて志願者の増加が目立つのは、地球社会共生、経済、社会情報学部である。このうち地球社会共生学部は前年の2倍の志願者が集まった。昨春の志願者数の減少幅が大きかったことから、反動も大きくなった。

なお、昨春よりいくつかの学部・学科で英語外部試験利用型の方式を導入しているが、今春は国際政治経済学部のB方式で従来の英語リスニングを廃止し、出願要件に英語外部試験のスコアを加えた。志願者数は前年から4割減少、過去10年でみても最少となった。

### 慶應義塾大学

大学全体の志願者数は前年比100.1%、大学全体としては堅調な人気を保っているといえるだろう。

学部別にみると、志願者の増加が目立つのは文、総合政策学部である。なかでも文学部の志願者は2年連続で1割程度増加しており、今春の志願者数は2年前から約1千人増となった。一方で、法学部の志願者は前年比100.7%、経済学部では同97.5%と、落ち着いた動向となった。理系に目を向けると、理工学部で前年並みの志願者数となったものの、医、薬、看護医療の医療系3学部ではいずれも志願者が減少した。なかでも医、薬学部では3年連続の志願者減である。

### 上智大学

志願者数は前年比105.5%と増加した。学部別にみると、法、理工学部を除き、いずれも増加となった。

導入3年目となるTEAP利用型では志願者は前年比96.2%と、2年連続の減少となった。今春は全学部・学科で4技能が必要となった。このため、2技能から4技能に変わる学部・学科で志願者の減少が目立った。と

くに法学部では法律、地球環境法学科あわせて4割減、理工学部では6割減と志願者が大きく減少した。

学科別入試では、文、外国語、総合グローバル、経済学部などで志願者が前年から1割以上増加した。外国語学部の英語学科では2次試験を廃止したこともあり、志願者は613人→913人と大きく増加した。一方、総合人間科学部の看護学科は、数学、理科の出題範囲変更により、実質的に文系生の受験が難しくなった。このため志願者数は532人→373人と大きく減少した。

### 中央大学

志願者数は大学全体で前年比97.8%。MARCHで唯一志願者が減少した。方式別にみると一般方式で前年比103.1%、センター方式で同91.6%と、センター方式で減少した。

一般方式の学部別の状況をみると、志願者の増加が目立つのは総合政策、経済、商学部である。また、法学部の志願者数は前年比100.6%と前年並みにとどまるものの、前年に1割ほど増加した志願者数を維持しており、社会科学系の学部はいずれも人気とみてよいだろう。一方、理工学部では4年連続の志願者減となった。

センター方式の志願者数は、併用方式、単独方式ともに減少した。学部別でもいずれの学部も志願者が減少した。なかでも文、経済学部で前年からの減少幅が大きい。両学部ともセンター方式の志願者数が5千人を切ったのは、文学部で7年ぶり、経済学部で11年ぶりとなる。

### 東京理科大学

大学全体の志願者数は前年比104.1%。前年から約2千人増となった。方式別では一般方式の志願者数が前年比110.8%と大きく増加したのに対し、センター方式では同92.0%と対照的な動向となった。

一般方式であるB方式では、今春から同一試験日・同一受験科目の場合、2学科まで出願可能となった。このため延べ数にして約3千6百人の志願者増となった。とくに経営学部の2学科、工学系の各学科で志願者の増加が目立った。

センター方式では個別試験を課さないA方式で前年比99.6%であったのに対し、併用型のC方式で同67.7%と大きく減少した。C方式では全学部ともセンター試験は英・国の2教科を利用する。今春はセンター試験国語

の平均点が20点以上ダウンしており、センター試験後の出願であるC方式の出願を取りやめた受験生が多かったものと思われる。

### 法政大学

大学全体で119,206人(前年比116.9%)と、首都圏最多の志願者を集めた。方式別にみても一般方式で前年比114.6%、センター方式で同122.1%と、いずれも志願者が増加した。センター方式ではB方式に国際文化学部が加わったほか、C方式も複数学部・学科が新たに実施したが、それ以外の学部・学科でも志願者の増加が目立った。

一般方式では、T日程(統一日程)、A方式をあわせた志願者数は1万人近く増加した。また、英語外部試験利用入試も実施学部の増加、利用可能な試験にTEAPが追加されたことなどから、志願者数は倍増した。

学部別にみると、とくに志願者の増加率が高かったのは、文、国際文化、経済、経営、人間環境学部である。このうち国際文化学部では前述のセンター方式を導入、1,134人の志願者が集まった。一方でグローバル教養学部のセンター方式では、志願者が前年比60.6%と大きく減少しており、国際文化学部で新規にセンター方式を導入したことが影響したものと思われる。

### 明治大学

大学全体の志願者数は前年比104.6%と増加した。方式別にみると、一般方式で前年比102.7%、センター方式で同109.6%とセンター方式で増加率が高くなった。一般方式では一般選抜の志願者が前年比100.3%であるのに対し、全学部統一入試では同109.9%と大きく増加した。全学部統一入試の志願者増の要因は政治経済学部である。政治経済学部では数学が必須ではなくなり、必要科目数も4科目から3科目に減少した。このため、志願者数は前年の2.4倍に膨れあがった。

経営学部では新たに英語4技能試験活用方式を導入したが、募集人員40名に対し志願者数は174人、志願倍率は4.4倍にとどまった。商学部ではセンター方式の理科の指定科目を変更した。昨春まで理科は理科②が指定されていたが、今春は理科①も利用できるようになった。この変更により、理科が必須の6科目方式の志願者数は前年の約3倍にまで増加した。選択可能科目が同系統の他大学とある程度揃っているか否かは、志願者数に少な

からず影響することを実証した形である。

### 立教大学

大学全体の志願者数は前年比103.2%と増加した。方式別では一般方式で前年比105.4%、センター方式で同99.2%となった。センター方式では昨春1割以上志願者が減少したが、その反動はみられなかった。近年、立教大では志願者数の隔年現象がみられ、今春は増加年にあたる。ここ5年ほどをみると、志願者の増加以上に減少数が大きく、増減を繰り返しながらも志願者数は減少傾向にある。

学部別にみても前年の反動が出ている学部が多い。例えば、経済学部で前年比124.6%、経営学部で同119.9%と増加率が高くなったが、この2学部は前年に減少していた。反対に法学部は前年志願者が増加した学部だが、今春は前年比86.2%と大きく減少した。なお、異文化コミュニケーション学部では5年連続の志願者減となった。近年、国際系学部・学科の新設が相次ぎ、選択肢が増えていることから難関である当該大を避ける動きがありそうだ。

英語外部試験が出願要件となる全学部日程グローバル方式の志願者数は374人→1,397人と大きく増加した。初年度の昨春は、学科によっては志願倍率が2倍を切ったところもあった。受験生には狙い目と映り、今春の志願者増につながったものとみる。

### 早稲田大学

大学全体の志願者数は前年比106.4%、2年連続の増加となった。志願者数が11万人を超えたのは6年ぶりとなる。方式別でも一般方式で前年比106.6%、センター方式で同105.4%と、いずれも増加した。

教育学部は4年連続の志願者増となった。文、文化構想学部では、新たに英語4技能テスト利用型を導入した。募集人員が文50名、文化構想70名と他大学に比べ多いこともあってか、それぞれ368人、543人と比較的多くの志願者が集まった。また、新方式導入により既存の一般方式の募集人員が減少したが、志願者は両学部とも増加した。とくに文化構想学部の志願者は1割以上増加し、一般方式だけで1万人を超えた。

理工3学部の志願者は、基幹理工(前年比104.3%)、創造理工(同101.0%)、先進理工(同99.3%)となった。基幹理工学部では2年連続の志願者増となっており、

2007年度の学部設置以降初めて志願者が5千人を超えた。また、3学部の志願者数は、これまで先進理工学部が最多で推移してきたが、初めて基幹理工学部が最多となった。

### 同志社大学

大学全体の志願者数は前年比112.0%、過去10年で最多となった。方式別にみても一般方式で前年比110.8%、センター方式で同117.1%と、いずれも大きく増加した。今春は大阪大が後期日程を廃止、すでに京都大も法学部特色入試を除き後期日程を廃止しており、近畿地区国公立大の後期出願先が狭まっている。これが志願者増の要因の一つとみる。

社会科学系の学部では軒並み志願者が増加した。なかでも経済、商学部では過去10年で最多の志願者数となった。社会学部のセンター方式では、社会学科と教育文化学科で個別試験（小論文）を取りやめ、センター試験のみとなった。このため両学科で志願者が大きく増加した。

一方、グローバル・コミュニケーション学部は、昨春、学部設置以来初の志願者増加となったが、今春は再び減少に転じた。グローバル地域文化学部は3年連続の志願者減となった。近年、近畿地区でも国際系の学部・学科の設置が進む。選択肢が増えたことで、敬遠されているのかもしれない。

### 立命館大学

大学全体の志願者数は前年比100.1%となった。昨春、学部新設などにより志願者は前年から約1割増加したが、今春もその志願者数を維持した。方式別にみると、一般方式で前年比101.7%、センター方式で同98.1%となった。

産業社会、経営学部ではいずれも志願者数は1万人を超え、過去10年で最多となった。経済学部では国際経済学科を募集停止、経済学科に経済、国際の2専攻を新設した。国際専攻では併用方式以外のセンター方式は実施しない、一般方式では学部個別配点方式は実施しないなど、学部として募集区分数が減少した。しかし、志願者は学部全体で前年から1割増となり、経済学部の人気を感じる。

一方、設置2年目を迎えた総合心理学部は、前年比69.2%と志願者が大きく減少した。センター3教科型

を廃止して募集区分が減少した影響に加え、初年度に4千人を超える志願者が集まっていた反動で、その他の入試方式でも減少が目立った。

理工系3学部では、理工（前年比100.4%）、生命科学（同105.7%）、情報理工（同97.0%）となった。いずれの学部も一般方式で志願者減、センター方式で増となった。

### 関西大学

大学全体の志願者数は前年比102.4%となった。方式別にみても一般方式で前年比102.1%、センター方式で同103.4%と、私立大全体に比べれば増加幅は小さい。今春は大きな入試変更がなかったことも理由だろう。

学部別には隔年現象を起こしている学部が目につく。文、社会安全、政策創造学部は昨春の志願者減の反動から今春は大幅に増加した。反対に、法、人間健康学部では前年志願者増、今春は減となった。とくに法学部は昨春新方式の導入などで志願者が大きく増加していたため、今春は前年比88.7%と1割以上減少した。

このほか外国語学部では2年連続の志願者減となっているが、今春は前年から1割も減少した。他大での国際系学部・学科の新設が影響していそうだ。

理工系学部の志願者は、システム理工（前年比104.9%）、環境都市工（同91.3%）、化学生命工（同88.1%）となった。化学生命工学部の志願者数は4千5百人を割り込み、2007年度の学部新設以来最少となった。

### 関西学院大学

大学全体の志願者は前年比112.5%、4年ぶりの志願者増となった。方式別でも一般方式で前年比112.8%、センター方式で同111.8%と、いずれも増加した。学部別にみると、唯一志願者が減少したのが法学部である。今春の減少幅は小さいが、3年連続の減少となった。一方、文学部は昨年まで4年連続、社会、国際、経済学部では3年連続で志願者が減少していたが、今春はいずれも増加に転じた。とくに社会、経済学部の志願者は前年から3割以上の増加となった。

理工学部の志願者は前年比106.0%と増加した。方式別では一般方式で前年比109.1%と増加率が高かった。化学、環境・応用化学科で独自方式日程を新規実施、独自方式日程は学部全体で前年比167.2%となった。